

Book

さまざまな世界を 身近に感じられる絵本

目に見える身の回りの出来事は自分事として捉えやすいが、逆もまた然り。「生物多様性の劣化」というワードにピンとこない人は多いかもしれない。

この本は、SDGsがもっと身近に感じられる数々の絵本が厳選された、「絵本を通してSDGsを楽しく学べる」新しいブックガイドだ。SDGsが目指す17それぞれのゴールに関する絵本が紹介されている。

例えば、海の下に広がる生きものの世界や、森と海のつながり、ポテトチップスとゾウの関係など、自分と世界とのつながりに気づかせてくれる。

SNSの普及で、興味のある情報だけが手元に集まりやすい昨今だが、視野と想像力を広げるきっかけとして、ぜひこの本を開いてほしい。



『絵本で学ぶSDGs』
別冊太陽 日本のこころ
平凡社(2022年8月)
絵本でSDGs推進協会 編
中川素子 編集協力
定価: 本体2,400円+税

Website

生物多様性を可視化したマップ

“自然が土台としてあってこそその社会経済”という認識が浸透してきているものの、自然の豊かさや劣化は定量評価が難しく、目標や計画を立てづらいという課題があった。

そんな中、琉球大学の久保田康裕教授が率いる会社「Think Nature」社の研究チームを中心に開発されたのが「日本の生物多様性情報システム (J-BMP)」だ。日本全土で絶滅危惧種が多い場所や、在来種数・害獣等の分布、保全上重要な場所はどこか、といった内容が一目でわかる。国立公園などの点検事業や、都市計画や土地利用でのインパ

クト評価などへの活用が期待できるという。

あらゆるセクターで、生物多様性の保全・利用・再生のアクションに役立てていきたい。



日本の生物多様性地図化プロジェクト
Japan Biodiversity Mapping Project (J-BMP)
<https://biodiversity-map.thinknature-japan.com/>

Application

生物多様性を 楽しく学びながら貢献しよう

いきものコレクションアプリ「^{バイオーム}Biome」は、生物の分布状況を把握し、生物多様性保全の基盤情報として活用していくために開発されたスマートフォン向け無料アプリだ。

身近な動物や植物の写真を撮るとAI判定してくれ、その名前や概要情報を教えてくれる。虫や爬虫類、動物、鳥、植物など、日本国内ほぼすべての動植物約10万種(2023年1月時点)に対応しており、投稿されたデータは、保護団体や研究機関などに提供されているという。

アプリの機能の1つ、「いきものクエスト」も人気だ。“今この季節に出会える生き物たち”や、“〇〇県の10種類の生き物”を集めよう、などのゲーム要素が楽しい。

専門家でなくてもまわりの生き物を知ることができ、しかも遊びながら生物多様性保全にも貢献できる、そんな嬉しいアプリをぜひ活用したい。



いきものコレクションアプリ「Biome」
<https://biome.co.jp/app-biome/>
株式会社バイオーム

Documentary

気候変動を救う 大地の力

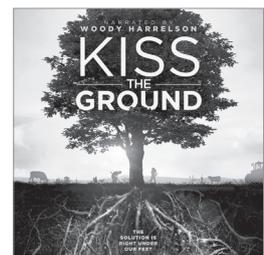
「大地と土壌こそが温暖化を食い止める鍵となる」ことを紐解くドキュメンタリーを紹介したい。

大地には、CO2を土壌に閉じ込める役割があるという。光合成のために植物が吸収したCO2を、地中の微生物が土壌に固定してくれるというメカニズムだ。

しかし現代の多くの農法では、化学肥料を使うことでその微生物がほぼ死滅してしまう。また耕起により、せっかく土壌中に蓄えられたCO2も大気中に排出されている。

そこで本作品で紹介されている解決策が、大地を再生させる不耕起・自然農法だ。すでに排出されてしまった温室効果ガスを回収する手段として大きな効果があるといわれている。

大地のさまざまな役割について考えさせられる作品だ。



Netflix シリーズ
「キス・ザ・グラウンド: 大地が救う地球の未来」独占配信中
<https://www.netflix.com/jp/title/81321999>